

4. 基本目標に対する評価指標

対応する基本目標	評価指標	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和9年度)
公共交通を守っていくための仕組み・体制を構築する	若桜鉄道、日本交通・八頭若桜線、町営やずバス、タクシー利用費助成事業の維持に係る町民1人あたりの財政支出額の合計	14,190 円/人	16,580 円/人 以内
	町営やずバスの運行に係る利用者1人あたり赤字額	1,089 円/人	1,000 円/人 以内
地域に適した公共交通とその利用環境を提供・整備する	八頭町内における町営やずバス、タクシーの年間利用者数	61千人	55千人
	利用環境の整備・改善に関する取組の実施件数	—	年1件以上
より多くの人々が公共交通に触れる機会を創出する	公共交通に関する情報発信の回数	—	年3回以上
	取組を実施する際に連携した部門数	—	3部門 (教育・福祉・観光)

5. 計画の推進体制とモニタリング方法

計画の進捗管理は「八頭町地域公共交通会議」が行い、毎年度改善を図りながら継続していくことで計画を推進します。

また、計画期間の5年間に於いては、必要に応じて計画の見直しを図りながら、最終年度に計画全体の達成状況の評価・検証並びに計画の更新又は次期計画の策定を行います。

年度	R4 策定前	R5 初年度	R6	R7	R8	R9 最終年度
Plan 公共交通計画の策定						
Do 事業の実施						
Check 計画全体における達成状況の評価・検証		必要に応じて適宜計画を見直し最適化				
Action 次期計画の策定及び計画の更新						

八頭町 地域公共交通計画【概要版】



令和5年3月策定
八頭町

基本方針

人々の暮らしや交流を支える公共交通を“みんな”で守る

計画期間

令和5年度(2023年度)～令和9年度(2027年度)

1. 計画の趣旨

八頭町の公共交通網は、JR因美線や若桜鉄道、日本交通・八頭若桜線、町営やずバス、タクシーで構成されており、これらとスクールバス等によって通院・買い物、通勤・通学といった地域住民の生活や観光客の周遊行動を支えています。

しかしながら、町内の公共交通の利用者数は、人口減少や自家用車への依存、近年の新型コロナウイルスの感染拡大による影響等により減少が続いています。また、運転者の高齢化や人手不足も深刻な状況にあり、将来に渡って地域の移動手段を維持・確保していくことが大きな課題となっています。

こうした状況を踏まえ、町民及び町外からの来訪者にとって利便性の高い移動手段を確保し、効率的で持続可能な公共交通ネットワークを構築するため、本町の地域交通に関するマスタープランとなる計画（地域公共交通計画）を策定することになりました。

2. 八頭町公共交通の課題

現況の整理・分析やアンケート調査等により、八頭町の抱える公共交通の課題を次の5つに整理しました。これらの課題を踏まえて、本計画の目標や取り組む事業を設定しました。

- 課題1 人口減少や高齢化、地域の特性等を踏まえた公共交通網の構築
- 課題2 運行の効率化や過度な行政支出の抑制等を踏まえた、公共交通の維持・確保
- 課題3 町内の交通資源の活用・配置による運転者不足への対応
- 課題4 公共交通の利用環境整備
- 課題5 公共交通の利用促進と公共交通を「守っていく」ための意識醸成・理解促進

3. 計画の基本目標と事業内容

目標 公共交通を守っていくための仕組み・体制を構築する

広域交通の維持・確保

- 広域的な幹線交通である若桜鉄道や日本交通・八頭若桜線の維持・確保に努め、利用実態に応じた運行ダイヤの調整等を行います。
- 鳥取県や周辺自治体と連携することで公共交通ネットワークの維持に努めます。

町営やずバスの見直し

- 大江線・私都線については、広域交通との接続等を調整しながら路線を維持します。
- 大江線・私都線以外の路線については、必要に応じてルートやダイヤの見直しや、路線不定期便運行（デマンド型）への切り替え等を検討します。



▲ 町営やずバス

タクシーの効率的な運用推進

- 効率的に運用するために、タクシー利用費助成事業を活用した相乗り利用を促進します。
- 具体的には、需要の多い時間（10時～12時台）における相乗り利用の周知・案内、希望者同士のマッチングが成立しやすくなる仕組み等を検討します。

スクールバスを含めた運転者不足への対応

- スクールバスを含めた公共交通の運転者不足に対応するための取組を推進します。
- スクールバスについては、公共交通等の利用を含めた様々な通学体系への転換を検討します。また、中学生の通学については若桜鉄道の沿線地域において、スクールバスから若桜鉄道を利用した通学への転換を検討します。
- 大型の車両を用いる必要のない町営やずバス路線やスクールバス路線について、町が直接雇用しているスクールバスの運転者やまちづくり委員会の送迎を行っている地域住民といった人材活用を検討します。

目標 地域に適した公共交通とその利用環境を提供・整備する

公共交通の利用環境改善

- 鉄道と町営やずバスの接続について、ダイヤ改正にあわせた対応を継続します。
- 郡家駅を中心に駅施設や地域拠点における乗り換えの案内について、必要に応じて改善を図ります。
- 町営やずバス路線においても町バス位置情報システムのほか、Google等の主要な経路検索サービスへ対応を推進します。
- 二次元バーコードや交通系ICカード等によるキャッシュレス決済の導入といったICTを活用した利便性向上策を検討します。
- 安全性が十分ではないバス停を把握し、必要に応じた改修や整備を行います。

目標 より多くの人々が公共交通に触れる機会を創出する

若桜鉄道を活用した観光施策の推進

- 観光部門や若桜鉄道と連携を図り、駅舎や列車等を観光資源化・魅力化に努めます。
- 観光列車や貸切列車によるイベント等において周知・PRを行います。
- 各交通手段の情報が一体になった時刻表や、観光マップと一体化した路線図、観光面で公共交通との連携が図れるデジタルサイネージ等を活用して利用促進を図ります。

公共交通の利用・理解の促進

- 教育部門や学校との連携体制を構築し、鉄道やバスの乗り方教室等、児童・生徒を対象にした利用促進に取り組みます。
- 保護者を対象とした説明会を開催し、公共交通の現状に対する理解を促進します。
- 鳥取県や周辺自治体と連携して実施している高校生の通学助成等を継続します。
- まちづくり委員会や地区サロン、老人クラブ等の組織を活用し、公共交通の周知等を行います。
- 高齢者が理解しやすい広報素材を作成します。
- 町の広報誌やウェブサイト、SNSを活用して利用状況や取組の進捗状況、財政支出の現状等の情報を発信します。



▲ 児童を対象にした若桜鉄道の乗車体験

関係者による連携体制の構築

- 地域公共交通会議を毎年度定期的で開催し、事業の実施状況や計画の進捗報告等を行います。
- 教育や福祉、観光等との協力体制を構築し、本計画で示した事業の実施に向けて検討していきます。

タクシー利用費助成事業の維持・活用

- タクシー利用費助成制度の維持に最大限努めます。
- 財政負担を考慮しながら、対象者や対象となる移動の範囲等についても必要に応じて見直しを検討します。

新技術を活用した移動サービスの導入検討

- 自動運転については今後の社会動向に注視しつつ、関連企業との連携体制を維持し、社会実装に向けた検討を継続します。
- 地域住民の広域的な移動や来訪者の利便性向上に向け、鳥取県東部地域MaaS協議会と積極的に連携・協力を図ることでMaaSに関連する取組を推進します。